



大阪/住吉大社  
撮影 SSフォトクラブ 浅野哲夫さん



## 新年のご挨拶

シャープ社友会  
会長 御手洗 顕

新年、明けましておめでとうございます。  
昨年は東日本大震災による津波被害、福島原発事故と未曾有の災害に見舞われました。

又、世界的な景気の低迷、特にギリシャの問題による、EU圏の経済不安。引き続いての円高により、企業の業績悪化、失業者の増加など、日本にとっては試練の年でした。シャープもこの経営環境悪化の中で大変な苦戦を強いられています。

創業100周年を迎える本年は何とかこの状況から脱して新たな発展に向けて進んで欲しいと期待しております。

こういった中ではありますが、社友会は着実に成長しており、会員数も全国で4903名、本部3045名、東北119名、栃木389名、東京613名、中部176名、広島428名、九州133名と大変大きな組織になりました。社友会の中心的活動である同好会活動は大変活発に行われており、喜

ばしい限りです。昨年3月に実施した旅行会、観劇会も大好評でした。

東日本大震災への義援金募集も多くの皆様に絶大なご協力戴き、全国合計で896万円を寄付することができました。前年に続き10月に実施した堺工場見学会も大好評で、約400人の参加をいただきました。また、社会貢献活動もシャープの森の整備活動や各種ボランティア活動へ参加し活動が進み始めました。このように、順調に推移しております一方で、

- ① 社友会入会率が6~7割と低い。
- ② 活動の中心に若い年代層が少ない。
- ③ 会員増加に見合った組織運営の見直し。

等の課題もあります。

本年は、社友会の「同好会活動」を基軸とし、これら課題への対応を図るとともに現在行われている種々活動の更なる充実活性化を図って参ります。

又、昨年は、本部役員を増強し、前記の課題への対応の下地作りを行いました。本年はこれらを機能させ、成果を上げる取組みを行います。

社友会の活動が楽しく有意義なものになるよう、皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

※社友会活動の基本的な考え方(概念)をP2に掲載しています。ご覧下さい。会報編集室

※会員数は2011年11月末現在。



# 新春を迎えて



シャープ社友会  
顧問 蛇草 實太郎

新年、明けましておめでとうございます。

昨年春3月、東日本に有史以来の大震災が起こり、秋には近畿でも台風12号による大災害が発生しました。私はあの悲惨な有様をテレビで見た時、思わず“神様はこの国を見捨てられるのか!”と叫んでしまいそうになりました。

また、米国の不況、ギリシヤを震源とする欧州の経済危機、果てしなく続く円高。そして更に、タイの大洪水で日本の自動車・電機の産業界も大きな打撃をうけました。国の政治に対しても不信感が募るばかりです。

こんな厳しく暗い、酷な環境の中で、お正月だからといって“おめでとう”などと挨拶を交わせる気持ちになれない人が多いかも知れませんね。しかしそれでも、私は敢えて“おめでとう”とご挨拶をしたいのです。

何故なら、今の世の中のありさまに、私も絶望してしまいうことになるのですが、“一年の計は元旦にあり”と教育

されてきた我々には、更なる嘆きや諦めに陥ることなく、今一度夢を描き直し、目標を見定め、また新たな決意で前進せよと、心機一転の「活」を入れてくれる、伝統的な“日本のお正月”があり、大きな慶びと感謝が湧いてくるのです。ありがたく、またおめでたいではありませんか。

ところで、昨年11月にブータン国王夫妻が訪日され、そのご滞在中に東北の被災地を訪ねて罹災者を励まされました。私はTVニュースを見て、さすが“民の幸せ”を政治の信条に掲げる国の国王だなあ!と感動しました。

物質的な豊かさでは日本と比較にならないブータンの国民が日本国民よりはるかに高い“幸福感”を持って日々暮らしているというデータも報道されていました。

この一連のニュースは誰もが“幸せでありたい”という願望は、物質的な富だけでは得られない、「もっと他に大切なものがある」ということを如実に実証する一例ではないでしょうか。

「人生の仕上げ期」も後半?終盤?にある私ですが、年頭にあたり夢を描き直し、目標を見定めて、決意を新たにす上で「物・金・地位」等に囚われずに、“愛”と“信”を心に、より良い人間関係作りを目指しながら、社友会の皆さんとも、もっと喜びを分かち合える年にしたいと願う次第です。

## 奈良マラソン2011 ボランティアとして参加

12月11日、好天に恵まれた中、奈良マラソンのボランティアとして社友会メンバー7名が参加しました。

当日、午前7時過ぎには、JR奈良駅にはランナーやボランティアの人でいっぱい。今年で2回目の奈良マラソンにはランナーが1万6千人(フルマラソン・マラソン10km・5km)ボランティア4千人参加しました。

我々7名のボランティアは奈良市古市での沿道整理が担当です。このあたりは復路36.5kmの地点で少し上り坂なので一番しんどい所です。男も女も、若いも若きも、1万余人のマラソンランナーが走っているのを始めから終わりまで見るのは感動でした。私よりも年輩の人が苦しうに走っているのを見ても思わず涙。

若い男女がぬいぐるみを着て走っているのに「頑張れ」、観客整理よりも応援の方で頑張りました。

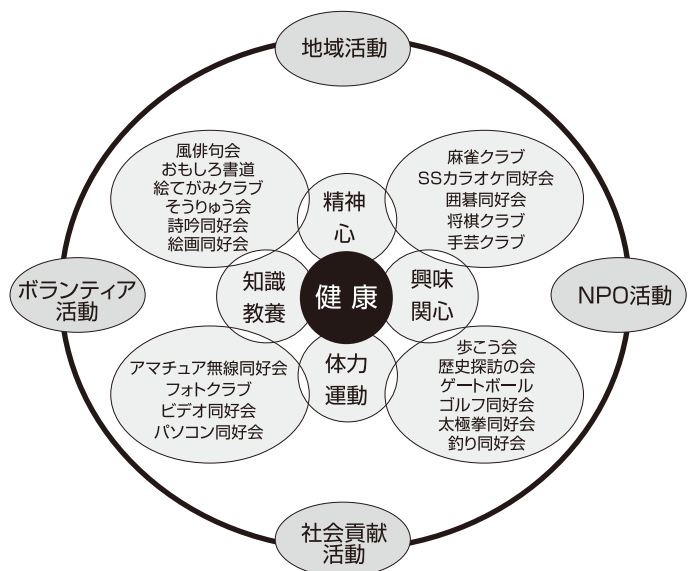
午前9時に鴻の池陸上競技場をスタートしてトップランナーが通過したのは11時4分、最終ランナーが通過したのは

14時30分、ランナーの皆さんから元気をもらい、まだまだ頑張らんなあかんと思った一日でした。 記:赤塚



社友会ボランティアメンバー

## 社友会活動の概念



## 編集室からのお知らせ

- 社内誌「mado」・会報「ゆう」について
  - ・昨年より、社内誌「mado」は偶数月に隔月発刊していましたが、本年より奇数月の隔月発刊になります。
  - ・会報「ゆう」は、2月・5月・8月・11月の年4回の発行予定です。